

輝け田底っ子

第37号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

- ①最後までがんばろう ②上手に伝え合おう ③自他を大切にしよう



11月は「心かがやけ月間」

「ありがとう」の気持ちを伝え合おう

11月全校集会にて「校長からの話」～「ありがとう」の気持ちを伝え合おう～

みなさんに問題です。「明るい」の反対は「暗い」、「速い」の反対は「遅い」です。では、「ありがとう」の反対は何でしょうか。「ありがとう」の語源は「有り難い」です。つまり、「ある」ことが「難しい」、そんなには滅多にないことだそうです。「ある」ことがなかなかないのに、それが「ある」と気づいた時には、うれしくて幸せな気持ちになります。だから、そういう気持ちにさせてくれた人や環境に感謝したくなります。そこから生まれたのが「ありがとう」という言葉です。こう考えると、「ありがとう」の反対は「ある」ことが当然のようにある「当たり前」だと言えます。

だから、身の回りの環境や周りの人々が自分や自分たちにしてくれる様々なことが、「当たり前」のことと感じていれば、「ありがとう」という気持ちは出てきません。朝起きてご飯を作ってくれた人は誰ですか。毎朝、加村の登校班の最後について安全を見守ってくれている大橋さんのことをどう思いますか。これらのことを「当たり前」だと感じていれば感謝の言葉は出てきません。自分たちの健康や安全のためにしてもらっていると受け止めることができれば、「ありがとう」の言葉につながります。

先日の運動会の解団式では、応援団長がみんなに「ありがとう」と感謝を述べていました。もし、応援団長が「自分に従うのは当たり前」「自分が頑張っているのだからみんなも頑張るのは当たり前」と考えていたら、こんな言葉は出なかったでしょう。この前、運動会後に応援団長に校長室に来てもらってインタビューをしました。2人とも団のみんなに、「話を聞いてくれたり、一生懸命声を出してくれたりしてくれて、ありがとう。」と言っていました。みんなが一緒になって頑張っている姿、自分の気持ちに答えようと協力してくれる姿に気づき、素直に嬉しかったのだと思います。

自分たちにしてくれている行動だけでなく、そこに込められた気持ちに気づくことで「ありがとう」の気持ちは生まれます。また、「ありがとう」の言葉を聞いた人は、自分のしていることや気持ちに気づいてくれて、受け止めてくれて「ありがとう」という喜びも感じます。

私たちは、毎日の何気ない行動に気持ちを込め、お互いにそれに気づいて「ありがとう」の感謝の言葉を伝え合えたら素敵ですね。

今月は「心かがやけ月間」です。「ありがとう」の言葉が一杯になり笑顔の多い田底小にしましょう。